

2026年5月14日

報道関係各位

GMO TECH ホールディングス株式会社

GMO TECH ホールディングス、AI 時代に向けた事業方針転換を実施 ～広告・メディア事業から AI SaaS 事業へ転換～

GMO インターネットグループの GMO TECH ホールディングス株式会社（代表取締役社長 CEO：鈴木 明人 以下、GMO TECH ホールディングス）は、2026年5月14日（木）、生成 AI の急速な普及による市場環境の変化を踏まえ、従来の広告・メディアを中心とした事業構造から、AI を活用した SaaS^(※1) 事業へと重点を移行する方針を決定しました。

今回の事業方針転換は、AI 時代における持続的な競争優位性の確立を目的としています。企業の業務フローの中核を担う「基盤型 SaaS」の開発を通じ、売上や業務効率の向上につながる価値提供を目指します。

(※1) SaaS (Software as a Service) とは、ソフトウェアをインターネット経由で提供するサービス形態で、利用者は自社でシステムを保有せずに利用できる仕組みを指します。

AI時代に向けた事業方針転換を実施

GMO TECH HD

広告・メディア事業から AI SaaS 事業へ転換

【背景】

近年、生成 AI の進化により、ユーザーの情報収集や意思決定のプロセスは大きく変化しています。検索行動の変化や、AI による情報提示の高度化に伴い、従来のインターネット広告やメディアの役割は改めて問い直されています。

こうした環境変化の中で、広告運用を中心としたフロービジネスは、不確実性や外部環境への依存度が高く、持続的な成長の観点から課題も顕在化しています。

一方、日本国内におけるクラウドサービス市場は拡大を続けており、企業によるクラウドサービスの利用率も上昇しています。全社利用と一部利用を合わせた利用率は、2024年時点で 80.6% に上ります。国内のパブリッククラウドサービス市場は、2029年には 8兆 8,164 億円規模まで成長すると予測されており、

業務運営や顧客接点を支える領域を中心に、SaaSをはじめとするクラウド型サービスの需要拡大が見込まれています。^(※2)

GMO TECH ホールディングスはこれらを踏まえ、AI 時代において持続的な競争優位性を確立するため、事業構造の転換を行うものです。

(※2) 令和7年版 情報通信白書 | 総務省

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/nd111210.html>

【新方針の概要】

GMO TECH ホールディングスは今後、AI を活用した SaaS 事業を中核とし、業務の中心で機能するプロダクトの構築を目指します。

昨今、SaaS 市場では単機能ツールの乱立やコモディティ化が進み、継続的な価値提供が難しくなっています。こうした中、AI が業務やデータと連携しながら機能する「AI 時代の SaaS」への転換を進めてまいります。

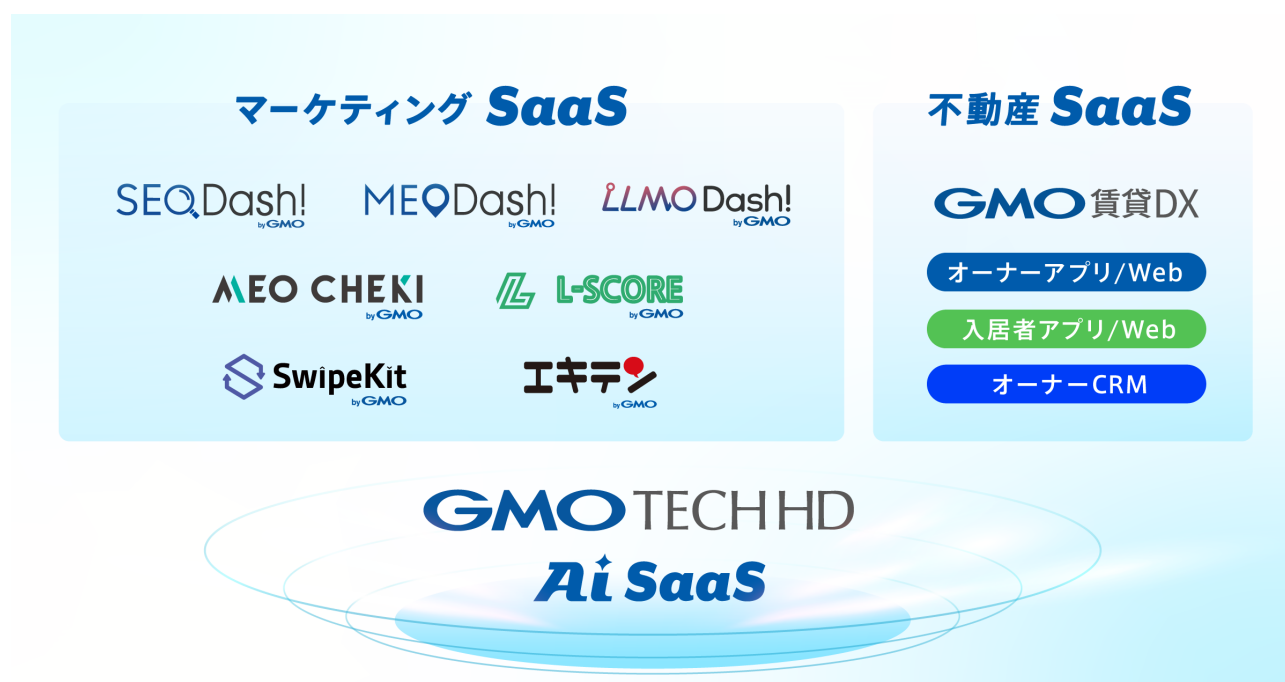
AI や外部システムとの連携性・拡張性を重視した設計思想のもと、業務フローの中心に位置し、複数の機能・データ・AI を接続できるプロダクトの開発に注力します。単一機能を提供するだけでなく、複数のデータや AI を横断的に活用できるプロダクトとして展開してまいります。

【具体的な取り組み】

■ 既存領域の SaaS 化・高度化

これまで培ってきた以下の領域について、AI との接続性や拡張性を重視した SaaS へと進化させ、データ資産や運用ノウハウを活かしながら、プロダクトとしての提供価値を高めてまいります。

- マーケティング SaaS 領域（SEO、MEO、店舗予約管理、LINE 効果分析、スワイプ型 LP）
- 不動産 DX SaaS 領域（オーナー/入居者アプリ、オーナーCRM など）



主な SaaS サービスの詳細については、以下のページをご覧ください。

▶ <https://hd.gmotech.jp/service/>

■新規 SaaS プロダクトの創出

AI 時代における業務課題や顧客接点の変化に対応するため、新たな SaaS プロダクトの開発を推進します。これにより、企業の成長を支える基盤となるサービスの創出に取り組んでまいります。

■ストック型ビジネスの拡大

SaaS 事業への転換により、継続収益モデル（ストック型収益）の拡大を図り、安定的かつ持続的な事業成長を実現します。

【今後について】

GMO TECH ホールディングスは、AI と SaaS を軸とした事業構造への転換を通じて、「成果を生み続ける仕組み」を提供する企業として進化してまいります。企業の成長に対し、一過性ではなく継続的に価値を提供することで、AI 時代における新たなスタンダードの確立を目指します。

【GMO TECH ホールディングス 代表取締役社長 CEO 鈴木 明人 コメント】

生成 AI の進化により、ビジネスの前提は大きく変わり始めています。当社はこれを機に、事業のあり方を見直し、AI を活用した SaaS 事業への転換を決断しました。

AI は、業務やデータと結びつくことで真価を発揮します。当社はこれまでの知見を活かし、AI が継続的に価値を発揮できる仕組みを提供することで、お客様の成長を支える基盤としての役割を担ってまいります。



GMO TECH ホールディングス株式会社
代表取締役社長 CEO
鈴木 明人

【GMO TECH ホールディングスについて】

GMO TECH HD

GMO TECH ホールディングスは、2025 年 10 月、GMO TECH 株式会社と GMO デザインワン株式会社の経営統合により共同持株会社として設立され、東京証券取引所グロース市場に上場しました。

これまで培ってきたマーケティング DX や不動産 DX、店舗運営支援などの領域において、データとテクノロジーを活用し、AI 時代に対応した SaaS プロダクト企業へ進化を遂げています。

「AI と SaaS で、企業の成長を持続可能にする」をビジョンに掲げ、業務フローの中心で機能する基盤型 SaaS を通じて、売上を“仕組みでつくる”プロダクトを提供し、お客様の持続的な事業成長を支えてまいります。

以上

【報道関係お問い合わせ先】

●GMO TECH ホールディングス株式会社
広報部 小林
TEL : 03-5489-6370 FAX : 03-5489-6371
E-mail : hd-press@hd.gmotech.jp

●GMO インターネットグループ株式会社
グループ広報部 PR チーム 倉田
TEL : 03-5456-2695
お問い合わせ :
<https://group.gmo/contact/press-inquiries/>

【GMO TECH ホールディングス株式会社】(URL : <https://hd.gmotech.jp/>)

会社名	GMO TECH ホールディングス株式会社 (東証グロース市場 証券コード : 415A)
所在地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代表者	代表取締役社長 CEO 鈴木 明人
事業内容	連結会社の経営管理ならびにこれに付帯または関連する業務
資本金	1 億円 (2025 年 10 月 1 日時点)

【GMO インターネットグループ株式会社】(URL : <https://group.gmo/>)

会社名	GMO インターネットグループ株式会社 (東証プライム市場 証券コード : 9449)
所在地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代表者	代表取締役グループ代表 熊谷 正寿
事業内容	持株会社 (グループ経営機能) ■グループの事業内容 インターネットインフラ事業 インターネットセキュリティ事業 インターネット広告・メディア事業 インターネット金融事業 暗号資産事業
資本金	50 億円

Copyright (C) 2026 GMO TECH HD, Inc. All Rights reserved.